

美作角田氏の興亡①

つのだ



当時金剛頂寺があった蕎麦尾山(山城)



後鳥羽公園の後鳥羽上皇の歌碑(新庄村)



角田氏の居館推定地(薪森原)

『作陽誌』(元禄四年(一六九二)刊)の中に、蕎麦尾山金剛頂寺(山城)に本尊を寄進した「角田弥平治」という人物の名が出てきます。ここには、「承久の役に軍功を以て薪郷を領す」と書いてあり、鎌倉時代に起こった承久の乱の功績として、現在の薪森原一帯の土地を恩賞としてもらった武士だということがわかりますが、それ以外のことについてはあまり知られていませんでした。しかし近年、埼玉県在住の角田勝治氏から、角田氏の出自や動向についてご教示いただき、新知見を得ることが

できましたので、これを参考に美作の角田氏について紹介いたします。承久の乱とは、鎌倉幕府成立後、京都の朝廷と幕府が政権を二分する中で、承久三年(一二二二年)に、後鳥羽上皇が幕府の執権・北条義時の討伐のために兵を挙げて敗戦し、後鳥羽上皇は隠岐島に配流となるという兵乱で、隠岐配流の際には、美作を通過したといわれ、十六夜山(津山市)や後鳥羽公園(新庄村)等、美作各地に後鳥羽上皇にまつわる伝説が残されています。承久の乱において上皇方に味方し

た公家や武家の領地は没収され、鎌倉幕府方に味方した御家人達へ恩賞として配分されました。上皇方の領地は西日本に多くあったため、これをきっかけに多くの東国の御家人が西国に移り住むことになり、幕府勢力は西日本へ深く浸透していきま

す。角田弥平治もこうした御家人の一人でした。角田勝治氏の調査によれば、角田氏は上総国角田郷(千葉県)に拠点を置く一族であったようです。

承久の乱の顛末を書いた「承久記」(流布本)によれば、幕府軍として出陣した御家人の中に角田太郎・弥平次の名があります。幕府軍は、東海道・中部・北陸の各地で上皇軍を撃破し、京都へと攻め込みます。そこで上皇軍の残党は最後の一戦をしようとして東寺へ立て籠もり、抵抗の末に敗北し、敗走する上皇軍の将の一人、三浦胤義を追撃しようとして角田太郎と弥平次が馬を進めます。そして弥平次が胤義を捕えようとして馬を寄せますが、胤義は良い馬に乗っていたため弥平次の追撃から

逃れ、捕らえ損ねた弥平次には、胤義の家臣である三戸源八が襲いかかって弥平次を馬から落とすし、組み合いになります。お互い武勇に優れた者であったため、しばらくは勝敗がつきませんでした。ついに弥平次が有利な体勢となり、源八の首を討ち取りました。

ここに登場する弥平次は、角田弥平治のことと思われますので、弥平治はこの時の手柄によって薪郷の地を賜ることになったのでしょう。太郎と弥平次の関係については、角田勝治氏の調査によれば兄弟であったようです。

では、弥平治が薪郷のどこに居住していたのかについてですが、「郷の村誌」では、地域に伝わる言い伝えとして、薪森原住吉の小学校の地(現郷公民館)が角田氏の居館跡とされています。また、薪森原には「角田」の小字もありますので、ここも角田氏と何らかの関わりがあった場所であると思われる。こうして角田氏は美作に拠点をもち、代々この地を支配していきます。

参考資料:『新訂訳文作陽誌』「承久記」

「郷の村誌」角田勝治氏の調査資料

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733